

みずほCustomer Desk Report 2022/09/09 号 (As of 2022/09/08)

市場営業部 為替営業第二チーム

【昨日の市況概要】

	USD/JPY	EUR/USD	EUR/JPY	公示仲値	144.43
	GBP/USD	AUD/USD			
TKY 9:00AM	144.10	0.9998	144.06	1.1522	0.6753
SYD-NY High	144.55	1.0030	144.33	1.1562	0.6775
SYD-NY Low	143.33	0.9931	143.18	1.1464	0.6713
NY 5:00 PM	144.11	0.9999	144.07	1.1498	0.6751

	終値	(前日比)		終値	(前日比)
NY DOW	31,774.52	193.24	日本2年債	▲0.0800%	0.0000%
NASDAQ	11,862.13	70.23	日本10年債	0.2400%	0.0000%
S&P	4,006.18	26.31	米国2年債	3.5108%	0.0727%
日経平均	28,065.28	634.98	米国5年債	3.4270%	0.0677%
TOPIX	1,957.62	41.97	米国10年債	3.3218%	0.0555%
シカゴ日経先物	28,100.00	390.00	独10年債	1.7075%	0.1345%
ロンドンFT	7,262.06	24.23	英10年債	3.1580%	0.1300%
DAX	12,904.32	▲ 11.65	豪10年債	3.5780%	▲0.1770%
ハンセン指数	18,854.62	▲ 189.68	USDJPY 1M Vol	13.68%	▲0.58%
上海総合	3,235.59	▲ 10.71	USDJPY 3M Vol	12.73%	▲0.36%
NY金	1,720.20	▲ 7.60	USDJPY 6M Vol	11.96%	▲0.42%
WTI	83.54	1.60	USDJPY 1M 25RR	▲0.08%	Yen Call Over
CRB指数	278.31	1.79	EURJPY 3M Vol	12.88%	▲0.28%
ドルインデックス	109.71	▲ 0.13	EURJPY 6M Vol	12.67%	▲0.23%

東京	東京時間のドル円は144.10レベルでオープン後、144.55まで上昇したものの長続きせず、前日の原油急落に伴う金利低下が意識されたのかドル売りに転じ、143.79まで下落。売り一巡後は、ドル買いに転じ144.12まで上昇するも、足元の急速な円安を勘案し財務省・日銀・金融庁が3者会合を行うとの報道から、円安けん制への備えとして円を買い戻す動きが優勢となり、ドル円は143.60付近まで一気に下落。その後は、143.46～143.80間でもみ合う展開となり、143.56レベルで海外時間へ渡った。
ロンドン	ロンドン市場のドル円は、143.56レベルでオープン。ややボラティルな展開。朝方当局の三者会合での円安けん制発言を受けて円高に振れたが、すぐに反発すると144.15まで上昇。しかし、ECBの政策決定を控えてユーロに買い戻しが入ったこともありドル円は下落。143.33まで売られ143.47レベルでNYに渡った。
ニューヨーク	海外市場のドル円は143円台後半でスタート。東京時間は買い優勢の流れとなり144.55まで上昇するも、米長期金利が3.25%付近で伸び悩んでいる中、145円を試す展開には至らなかった。また円安けん制目的で財務省・金融庁・日銀が3者会合を開催すると報じられたこともあり、その後143.33まで反落。押し目ではしっかりと買いが入り、すぐに144円台を回復するも、早朝は米金利低下を受けて143.33まで下押し、143.47レベルでNYオープン。朝方は一時3.2%を割り込んでいた米長期金利が上昇に転じる動きや対ユーロのドル買いが波及したことから144.43まで上昇。その後、パウエルFRB議長がインタビューで「インフレ期待の固定は非常に重要」、「労働市場の需要は依然として非常に強い」などと述べるも、目新しい情報は見当たらず、市場の反応は限定的。午後は新規材料待ちで144円を挟んだレンジで推移。終盤は米長期金利が3.3%台に乗せる中、買いが強まり、小幅上昇後、144.11レベルでクロス。一方、海外市場のユーロドルはECB理事会の結果待ちで様子見ムードが強まる中、パリテレベルを挟んで小動き。早朝は米金利低下でドル売りが進んだことから上昇し、1.0021レベルでNYオープン。朝方はECB理事会で75bpの利上げが発表され、一部では50bpの利上げが予想されていたことから発表直後は買いで反応し、1.0030まで上昇。しかし、EU圏経済の景気減速懸念が根強い中、買いは長続きせず、またラウル・ECB総裁が記者会見で「75bpは標準的な(利上げ)ではない」と述べたことで売りが強まり、0.9931まで反落。ECB理事会前後の売り買いが一巡すると、ユーロのショートカバーが進み、パリテ手前まで上昇。結局、0.9999レベルでクロス。

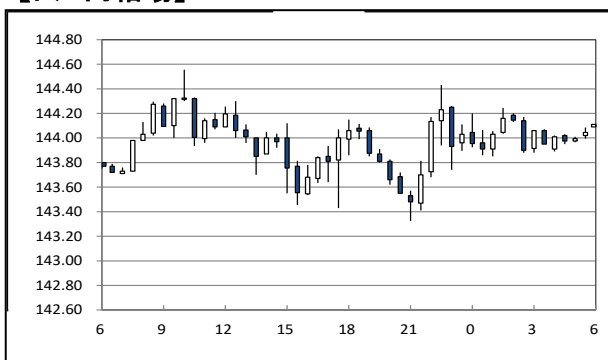
【昨日の指標等】

Date	Time	Event	結果	予想
9月8日	08:50	日 GDP(前期比/前年比)・確報	2Q 0.9%/3.5%	0.7%/2.9%
	10:30	豪 貿易収支	7月 A\$8733m	A\$14650m
	21:15	欧 ECB主要政策金利	- 1.25%	1.25%
	21:15	欧 ECB預金ファシリティ・レート	- 0.75%	0.75%
	21:30	米 新規失業保険申請件数	- 222k	235k
	22:10	米 パウエルFRB議長 講演	「インフレには真つすぐな行動が必要だとFRBは認識」	

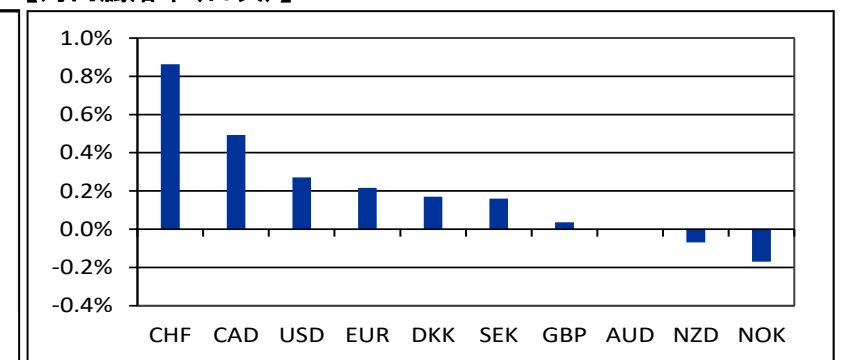
【本日の予定】

Date	Time	Event	予想	前回
9月9日	10:30	中 CPI/PPI(前年比)	8月 2.8%/3.2%	2.7%/4.2%
	23:00	米 エバンス・シカゴ連銀総裁 講演	-	-
	23:00	米 卸売在庫(前月比)・確報	7月 0.8%	0.8%

【ドル円相場】



【対円騰落率(日次)】



【予想レンジ】

通貨ペア	USD/JPY	EUR/USD	EUR/JPY
想定レンジ	143.30-145.00	0.9900-1.0050	143.00-144.70

【マーケット・インプレッション】

昨日のドル円相場は下方向へ往ってこいの展開。東京時間に144円前半でオープンしたドル円は前日の大幅続伸の流れを引き継ぎ買いが先行し144.55まで上昇するも一服。イベント前のポジション調整から仲値後には売りに転じ、午後に入ると財務省・日銀・金融庁の3者会合実施の報道を受けて143円半ばまで急落。その後も足元急速な円安への牽制が意識される中、海外時間には143.33まで下値を切り下げ。もっとも、その後パウエルFRB議長が討論会にてインフレ抑制に向け強く行動することを示唆すると米金利が上昇しドル買いが強まりドル円も144円台まで戻す展開となった。斯かる中、本日ドル円については底堅い推移を予想。ブラックアウト期間入り前に利上げをタカ派姿勢を印象付けたパウエルFRB議長発言を踏まえ米金利は上昇に転じドルサポート。本邦政府の円安牽制発言には注意しつつも、ドル円は再び145円を試す展開を想定しておきたい。

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償のみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

担当: 上遠野・大谷